

しょうふうでん

# 松楓殿

## ～松楓殿を彩った家具調度品の数々～

再現記念特別展では、松楓殿に備えられていた家具や食器などの調度品をご覧ください。



高峰博士と、その妻キャロライン・ヒッチ・高峰の肖像画。アメリカの肖像画家、スティーブン・シーモア・トーマス画。



1909年、久遠宮邦彦(くにのみやくによし)殿下夫妻が松楓殿に滞在される機会に手配されたと記録されている。明治天皇即位式のレプリカで、24弁の菊花紋がついている。



移転後の1906年、枢密院顧問大鳥圭介揮毫(きごう)による「松楓殿」扁額



欄間(松楓の間)



欄間(ダイニング)



松楓殿内装飾を手がけた、京都高等工芸学校(現京都工芸繊維大学)初代助教授の牧野克次が描いた松楓の間壁画。金箔地に能の一場面が描かれている。



青銅の仁王像。「生命」を表現した、口を開けた像。口を閉じている像は「死」を表すという。



19世紀の青銅の仏像は、13世紀の鎌倉の大仏を連想させる姿。



## 高岡ゆかりの彫刻師「村上九郎作」と松楓殿の家具調度品

### ～村上九郎作の高岡彫刻漆器と松楓殿家具制作への思い～

村上九郎作(1867年～1919年 小松生まれ)は、彫刻師として金沢で修業していましたが、「明治期デザインの先駆者」納富介次郎によってその才能が認められ、以後、納富の指導のもと、第四回パリ万博、第三回内国勧業博覧会に出品します。1890年、石川県工業学校の校長を務める納富の招きで彫刻科教師となりました。そして1893年、シカゴ・コロンブス万博に出品のため渡米し、欧米デザインの潮流を学びます。

1894年、納富が高岡に創立した富山県工芸学校(現富山県立高岡工芸高校)に招かれ、納富校長と共に当地の伝統工芸、高岡漆器の製法を指導し、産業化に貢献しました。当時の製法やモチーフは現在も受け継がれています。

1900年、村上は山中商会の招きで、輸出用高級家具調度品工場の工場長に就任、製品の輸出を指揮しました。松楓殿の家具の多くは、同商会の1904年セントルイス万博用製品カタログから高峰博士が松楓殿用に特注したものです。



『春日式八足卓』(上)と『春日式椅子』(右下)  
高峰謙吉博士が松楓殿メインゲストルーム用に山中商会に特注した。



高岡彫刻塗「二匹鯛」  
高岡市立博物館所蔵



## 事業協力

滝 富夫(松楓殿寄付者)

NPO法人 高峰謙吉博士研究会 副理事長

NPO法人 高峰謙吉博士研究会

高岡信用金庫、高岡市立博物館、高峰謙吉博士顕彰会

高岡市教育委員会(教育総務課)

〒933-8601 富山県高岡市広小路7-50 TEL 0766-20-1443

高岡商工会議所

〒933-8567 富山県高岡市丸の内1-40 高岡商ビル4F TEL 0766-23-5000